



一九〇五年一月、ウィンチェスター大聖堂の定期調査を行っていた建築家のJ・B・コルソンは教会の奥内陣(ま)を構成する南側の壁が外側に大きく傾斜していることを懸念し、早急に措置をとる必要があるとの報告書をまとめた。なぜそれほどまで傾斜するに至ったかは定かではなかったが、聖堂が拡張されたという十三世紀の工法に理由が隠されているのではないかとコルソンは推測した。

「おそらく基礎が不安定なのだろう。しかし果たしてどうやって基礎を強化すべきか…」コルソンは頭を痛めた。冬には聖堂の地下室が水浸しになることも少なくないからだ。水浸しの状態では基礎に手を加えることもできない、

今できることは、傾斜している壁に木の支柱をつかえ棒として何本も添えて、これ以上壁が倒れないように支えることくらいだろう。コルソンはその提案し、この傾斜を軽視すべきではないと警鐘を鳴らした。

聖堂参事会から助言を求められたウィンチェスター教区の建築顧問、トーマス・ジャクソンは、壁の外側を掘り進み、地盤調査を実施。すると、床下から数メートル下方に、十三世紀の職人たちが基礎として敷いた流木が露になった。しかも、その流木の数十センチ下方には分厚い泥炭の層が広がる。コルソンの推測どおり、「木と泥」では六百年以上わたる石造建築の重みに耐えかね、基礎が揺らぎ、壁が傾くのも無理はなかった。

不幸中の幸いは、泥炭のさらに下層は硬質の砂利層になっていて、この砂利層ならどんな重みにも耐えられる。問題はその三メートル弱の隙間をどうやって埋めるかだ。

ジャクソンの呼びかけで、水中建築において定評のある建築技師、フランソワ・フオックスがこの基礎強化プロジェクトに参加。フオックスは次の五つの措置を提案する。

- ①コルソンの提案どおり、壁を木の支柱で支えること、
- ②奥内陣のアーチ天井を木の梁で固定すること、
- ③南北の壁を鋼棒でつなぎ、壁の傾斜を防ぐこと、
- ④壁内の小さな隙間や穴に液状セメントを流し込み塗り固めて強化すること、
- ⑤壁は砂利層を基礎とすべく、新しい建材で基礎固

めをすること。

最も困難を極めたのは⑤の基礎の補強であった。まず、流木を切り外し、泥炭を掘り起こす。そして現在の床面から砂利層までの隙間を硬質の建材で埋めていくというのが計画であるが、泥炭を掘り起こすと同時に地下水が満ちてきて、水位は作業が可能なレベルのまま下がってはいけぬ。強力ポンプで水を吸い上げる方法は、泥炭だけでなく硬質な地盤をも削り取り、壁の倒壊をむしろ促す危険性をはらんでいた。

ポンプを使わずに作業するにはどうすればいいか…、フオックスは考え抜いた末に突然ひらめいた。「ダイバー(潜水士)ならできるかもしれない!」

こうして二人の潜水士が候補者としてウィンチェスターに召喚された。

*奥内陣へ空気を人間の体と見立てた場合に頭の部分にある、経理や聖歌隊の裏手となる部分。

個人ブログ大募集!!

あなたのブログを
ジャーニーのホームページに
リンクしませんか?

現在、インターネット・ジャーニーへのアクセス数は月平均約11万。
あなたが発信している英国での生活に関するブログを、
今よりちょっと多い方にご覧いただくためのお手伝いができるかもしれません。
営利を目的としない個人のブログであれば、リンクはもちろん無料です。
お申し込みはインターネット・ジャーニー「個人ブログの部屋」をご覧ください。

※掲載にあたり、事前に一定の審査をさせていただきます。内容によってはリンクをお断りしなければならない場合もございます。予めご了承ください。

インターネット・ジャーニー
www.japanjournals.com

木と泥の上に

今できることは、傾斜している壁に木の支柱をつかえ棒として何本も添えて、これ以上壁が倒れないように支えることくらいだろう。コルソンはその提案し、この傾斜を軽視すべきではないと警鐘を鳴らした。

聖堂参事会から助言を求められたウィンチェスター教区の建築顧問、トーマス・ジャクソンは、壁の外側を掘り進み、地盤調査を実施。すると、床下から数メートル下方に、十三世紀の職人たちが基礎として敷いた流木が露になった。しかも、その流木の数十センチ下方には分厚い泥炭の層が広がる。コルソンの推測どおり、「木と泥」では六百年以上わたる石造建築の重みに耐えかね、基礎が揺らぎ、壁が傾くのも無理はなかった。

不幸中の幸いは、泥炭のさらに下層は硬質の砂利層になっていて、この砂利層ならどんな重みにも耐えられる。問題はその三メートル弱の隙間をどうやって埋めるかだ。

ジャクソンの呼びかけで、水中建築において定評のある建築技師、フランソワ・フオックスがこの基礎強化プロジェクトに参加。フオックスは次の五つの措置を提案する。

- ①コルソンの提案どおり、壁を木の支柱で支えること、
- ②奥内陣のアーチ天井を木の梁で固定すること、
- ③南北の壁を鋼棒でつなぎ、壁の傾斜を防ぐこと、
- ④壁内の小さな隙間や穴に液状セメントを流し込み塗り固めて強化すること、
- ⑤壁は砂利層を基礎とすべく、新しい建材で基礎固

めをすること。

最も困難を極めたのは⑤の基礎の補強であった。まず、流木を切り外し、泥炭を掘り起こす。そして現在の床面から砂利層までの隙間を硬質の建材で埋めていくというのが計画であるが、泥炭を掘り起こすと同時に地下水が満ちてきて、水位は作業が可能なレベルのまま下がってはいけぬ。強力ポンプで水を吸い上げる方法は、泥炭だけでなく硬質な地盤をも削り取り、壁の倒壊をむしろ促す危険性をはらんでいた。

ポンプを使わずに作業するにはどうすればいいか…、フオックスは考え抜いた末に突然ひらめいた。「ダイバー(潜水士)ならできるかもしれない!」

こうして二人の潜水士が候補者としてウィンチェスターに召喚された。

*奥内陣へ空気を人間の体と見立てた場合に頭の部分にある、経理や聖歌隊の裏手となる部分。

ついた真鍮製のヘルメットを着用。このヘルメットには空気供給ホースの接続口や排気バルブ、水上と通信するための通信装置などが取り付けられており、ダイバーは潜水服内の空気量を手動で調節しなくてはならない仕組みになっていた。

この方式は、空気ポンプさえ正常に作動していれば、時間の制限なしに潜水可能な上、潜水服やヘルメットがかなり大きめに作られているため、万が一、空気ポンプの誤作動で空気供給が断られても、ダイバーは潜水服内の空気で五分程度は生き残れるという利点がある。しかし一方で、空気供給ホースが水中の障害物に絡まる危険性や、手動による空気供給を誤った場合に高気圧障害や窒息死を引き起こす可能性もあり、ダイバーには熟練したノウハウと強靱な肉体が要求される。さらに水中で安定した姿勢を取ることができるよう装備重量がとりわけ大きいのが特徴で、そのため水上では一人で移動することが難しく、水中での機動性もきわめて低かった。

ウィリアム・ウォーカー(一八六九—一九一八年) がウィンチェスターに召喚された時、彼はロンドン近郊のトリア埠頭で働いていた。英国王室海軍にて上等水兵であったウォーカーは潜水の訓練を受け、二十一歳にして英国のトップクラスのダイバーになった。数年後に除隊してからは、民間のダイビング会社に所属、チーフ・ダイバーに昇格し、ジブラルタル軍港での四年の赴任を終え、英国に戻ったばかりであった。三十七歳、経験に裏打ちされた自信にあふれ、男性として最も脂の乗った時期でもある。

二人の候補者のうち、ウォーカーが

個人ブログ大募集!!

あなたのブログを
ジャーニーのホームページに
リンクしませんか?

現在、インターネット・ジャーニーへのアクセス数は月平均約11万。
あなたが発信している英国での生活に関するブログを、
今よりちょっと多い方にご覧いただくためのお手伝いができるかもしれません。
営利を目的としない個人のブログであれば、リンクはもちろん無料です。
お申し込みはインターネット・ジャーニー「個人ブログの部屋」をご覧ください。

※掲載にあたり、事前に一定の審査をさせていただきます。内容によってはリンクをお断りしなければならない場合もございます。予めご了承ください。

インターネット・ジャーニー
www.japanjournals.com



ロンドンから電車で南西へ一時間というウィンチェスターは、全体を歩いて周ることのできるこぢんまりとした町。今ではのどかな郊外の町のひとつにすぎないが、かつてはここに、イングランド七王国時代に優勢を極めたウェセックス王国の首都があった。中世らしい閑静な街並みや歴史建造物などからは、古都ウィンチェスターとしての誇りが感じられる。

ノルマン征服後に首都がロンドンに移された後も、国王戴冠式はウェストミンスター寺院だけでなく、ウィンチェスター大聖堂でも行う必要があったというから、この町がイングランドの歴史以上に重要な役割を果たしていたことがおわかりいただけるだろう。

かつて七王国時代には、現在の聖堂の北側に約三分の一の大きさの旧聖堂「オールドミンスター」が存在した。一〇七九年、ノルマン人により新たに大聖堂が建てられると、オールドミンスターは九三年の大聖堂完成と同時に解体された。その後、大聖堂は十三、十四世紀にかけて拡張され、現在のゴシック建築として完成したのは十六世紀のこと。ヨロツッパのゴシック様式大聖堂のうち、最も長い身廊(ま)と全長(約百六十メートル)を持つ、イングランド最大級の聖堂として知られる。

およそ百年前、この由緒正しい大聖堂が倒壊の危機にさらされていた。今、我々が目にする壮麗な姿は、ある男の一騎当千の働きなしには存在しえなかったのである。

*身廊(ま)キリスト教建築の一部を指す呼称で、入口から中庭に向かうまでの中央通路となる部分。

潜り続けた5年半

大聖堂を救ったダイバーの物語

今できることは、傾斜している壁に木の支柱をつかえ棒として何本も添えて、これ以上壁が倒れないように支えることくらいだろう。コルソンはその提案し、この傾斜を軽視すべきではないと警鐘を鳴らした。

聖堂参事会から助言を求められたウィンチェスター教区の建築顧問、トーマス・ジャクソンは、壁の外側を掘り進み、地盤調査を実施。すると、床下から数メートル下方に、十三世紀の職人たちが基礎として敷いた流木が露になった。しかも、その流木の数十センチ下方には分厚い泥炭の層が広がる。コルソンの推測どおり、「木と泥」では六百年以上わたる石造建築の重みに耐えかね、基礎が揺らぎ、壁が傾くのも無理はなかった。

不幸中の幸いは、泥炭のさらに下層は硬質の砂利層になっていて、この砂利層ならどんな重みにも耐えられる。問題はその三メートル弱の隙間をどうやって埋めるかだ。

ジャクソンの呼びかけで、水中建築において定評のある建築技師、フランソワ・フオックスがこの基礎強化プロジェクトに参加。フオックスは次の五つの措置を提案する。

- ①コルソンの提案どおり、壁を木の支柱で支えること、
- ②奥内陣のアーチ天井を木の梁で固定すること、
- ③南北の壁を鋼棒でつなぎ、壁の傾斜を防ぐこと、
- ④壁内の小さな隙間や穴に液状セメントを流し込み塗り固めて強化すること、
- ⑤壁は砂利層を基礎とすべく、新しい建材で基礎固

Walker standing in full diving dress in front of the cathedral
©Dr John Crook/Chapter of Winchester
ウォーカーは9キロの潜水服に、鉛の錘が内蔵された靴16.4キロ(片足8.2キロ)、ヘルメット22.8キロ、胸や背中に装着する錘36.2キロと、総重量91キロに及ぶ装備をまとう必要があった。

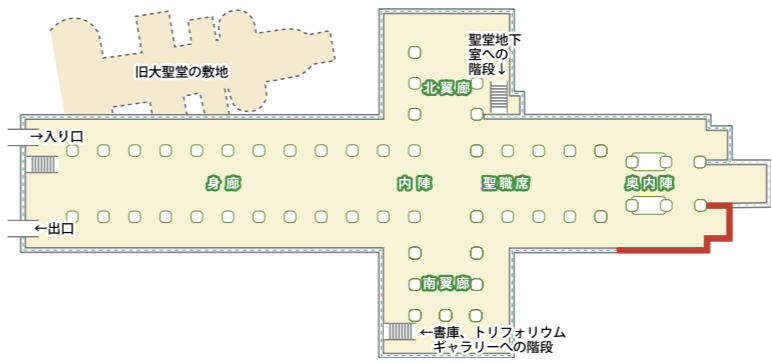


聖堂地下室は聖堂の中でも最も古い部分。中央に立つのは彫刻家アントニー・ゴームリーによる「サウンドII」。今でもこの彫刻の腰の部分まで浸水することがあるという。

抜き出ていることは誰の目にも明らかであった。

暗闇の五年半

聖堂参事会から大きな期待が寄せられたウォーカーには、以下の任務が課せられた。



赤い線で示してある部分の壁が外側に大きく傾斜していたところ。ノルマン人によって1079年から1150年に建てられた部分だ。

まず、土木作業員が壁の外側に一

度、書きまると、きわめて秩序

が限られていた背景も優劣が



2001年にウォーカーの顔写真をもとに作り直された胸像。



が名乗りを挙げ、新聞広告やチャリティ活動の呼びかけも功を奏し、一九一一年八月上旬、ウォーカーの使命は果たされた。

「聖堂の基礎補強のために尽力を注いだその功績はまことに顕著であり、ここに感謝の意を表します」と刻まれた銀製のロイズボールが贈られた。

翌年七月十四日から二十一日までは大聖堂の修復完了を祝う大感謝祭が催され、ウィンチェスターの守護聖人、聖スライザンの日にあたる十五日には、盛大なセレモニーが執り行われ、時の国王ジョージ五世と王妃メアリーも参列した。

「一日六時間、約六年働いておりました」とウォーカーが答えると「あなたの力で聖堂を救うことができたのですね」と賛辞を述べ、さらに「もしまた依頼があったら、同じ仕事をやりますか?」と尋ねた。ウォーカーは「決して易



ウォーカーの胸像がある奥内陣の南側部分。現在でも床面が歪曲しているのがわかる。

しい仕事ではないですが、またお役に立てるなら光栄です」と答えたという。この日のことをウォーカーは後に、とても気恥ずかしく感じた振り返り、それはおそらく潜水服ではなく慣れないフロロコートを身を抱んでいたためで、それゆえ自分だと気づけなかった人も多かったと冗談まじりに語ったという。

同年の暮れには、この功績を称えてウォーカーはロイヤル・ヴィクトリア勲章(MVO=Member of the Royal Victorian Order)に授けられ、フランス・フォックスはサールの称号を、トーマス・ジャクソンは準男爵に叙せられた。

しかし、それから六年後の一九一八年十月三十一日、スペイン風邪がヨーロッパ中に蔓延すると、ウォーカーは発症後、ほんの三日でこの世を去ってしまう。トッパダイバーとして強靱な肉体を持ち、かつて七十五マイルの道のりを物とせせず自転車走らせたウォーカーは、健康そのものの、病気とは無縁の生活を送つ

大柄な愛煙家

英国で指折りのダイバーとして活躍したウォーカーだが、私生活ではジブラルタル赴任中に妻ハナを亡くすという悲運に見舞われている。ハナは五人兄弟の末っ子となるエドワードを生んでまもなく他界。ウォーカーは、単身ジブラルタルに残り、この五人の子供たちを、英国に住むハナの妹アリスのもとへと帰さざるを得なかった。子供たちは無事英国に辿り着いたものの、そのうち二人は腸チフスにかかり瀕死の状態。アリスの賢明な看病のもと、なんとか快方に向かったという。ウォーカーはこのアリスの献身ぶりに打たれ、帰国してまもなくアリスと再婚し、アリスとの間に七人の子供を儲けている。この結婚を境に、生まれ育った南ロンドンのサザークから、南東のサウス・ノーウッドに居を移したウォーカーは、ここで残りの人生を過ごすことになる。ウォーカーの右腕として、空気が供給ホースの管理などを行っていた助手のウィリアム・ウェストが自転車の乗り方を教えると、即座に乗り方



ウォーカー(左)とアシスタントのウィリアム・ウェスト Walker and his dresser and assistant, William West ©Dr John Crook/Chapter of Winchester

た。だが、感染者六億人、死者四一五万人といわれる伝染病の猛威には打ち勝つことができなかった。この北端には、フランスの国民的英雄であり、カトリックの聖人であるジャンヌ・ダルクの像が立つ。これは、彼女を異端審問裁判にかけ火刑に処した、ウィンチェスター枢機卿ヘンリー・ポーフートの贖罪の意を込めて設置されているもの。一九二〇年にジャンヌ・ダルクが聖人に指定されたことを受け、二三年からここで巡礼者を迎えている。



1912年7月15日の感謝祭のよう、ジョージ5世と王妃メアリーをのせた馬車がアルフレッド大王の像のそばを過ぎゆくのを群衆が見守る。©Dr John Crook/Chapter of Winchester

ていた。だが、感染者六億人、死者四一五万人といわれる伝染病の猛威には打ち勝つことができなかった。この北端には、フランスの国民的英雄であり、カトリックの聖人であるジャンヌ・ダルクの像が立つ。これは、彼女を異端審問裁判にかけ火刑に処した、ウィンチェスター枢機卿ヘンリー・ポーフートの贖罪の意を込めて設置されているもの。一九二〇年にジャンヌ・ダルクが聖人に指定されたことを受け、二三年からここで巡礼者を迎えている。

英雄ウォーカー、永遠に

大聖堂の奥内陣は、聖スライザンの霊廊が座し、中世より多くの巡礼者を収容する「レトロクワイア」として機能してきた。現在、その北端には、フランスの国民的英雄であり、カトリックの聖人であるジャンヌ・ダルクの像が立つ。これは、彼女を異端審問裁判にかけ火刑に処した、ウィンチェスター枢機卿ヘンリー・ポーフートの贖罪の意を込めて設置されているもの。一九二〇年にジャンヌ・ダルクが聖人に指定されたことを受け、二三年からここで巡礼者を迎えている。

蘇った大聖堂

六年におよぶ基礎補強プログラムに費やされた総工費は当時の金額で十一万三千ポンド。現在の貨幣価値が当時の五百倍ほどと考えると、五千万ポンド以上の莫大な経費が費やされていることになる。カウシルからの援助はなく、公式に募金団体が関与しているわけでもなく、聖堂参事会にとっては資金調達は何より悩みの種であった。土木作業員の総数は百人を超えており、人件費が賄えず解雇せざるを得ないこともしばしばであったという。それでも国王を含め、寛大なスポンサーたちをマスターし、週末の度にウェストを誘って、七十五マイルの家族路を自転車で往復したというから、運動神経が抜群でたくましく男性だったようだ。身長百八十三センチ、体重約九十キロという、当時の人にしては大柄な体格だったと伝えられる。

周囲の誰もが「愛煙家」として認めるウォーカーは、「煙草は万病を陸く治療薬」と信じて疑わず、休憩を降り上がる度に一服するのが常であった。過酷な潜水業務を長年にわたり続けるのに煙草がひと役買ったようだ。地味な作業を淡々と続け、泥水の底で誰からの監視の目がなくとも仕事を完璧にこなすなど、彼が持っていた能力を存分に発揮して仕事に臨んだのはどの人の目にも明らかであった。彼の人間や私生活については多くの記録が残されており、推し量るより他ないが、おそらく真摯で実直な人柄だったのだろうと思われる。

トラベル・インフォメーション

アクセス：電車ならロンドン、ウォータールー駅から約1時間。車ではロンドンから南西に走りM3をジャンクション9で下車。 2010年10月10日現在

Winchester Cathedral and Visitors' Centre ウィンチェスター大聖堂

正式名称を Cathedral Church of the Holy Trinity, and of St Peter and St Paul and of St Swithun といい、「聖なる三位一体、聖ペテロと聖パウロ、聖スウィザンに捧げられた主教座大聖堂」である。ウィンチェスター主教管区を代表するウィンチェスター主教座が置かれている。前身は大聖堂の北側に7世紀に建てられていたオールド・ミンスターで、ノルマン人により1079年に大聖堂建設が始められた。全長約160メートルで、最も長い身廊を持つ大聖堂は、上空から見るとはつきりと十字架の形になっており、イングランド最大級の聖堂として名高い。リチャード1世の戴冠式やメアリー1世とフェリペ2世の結婚式が行われた他、近年では作家ジェーン・オースティンの葬儀も行われた。身廊左手には彼女の墓石を見ることができる。 The Close, SO23 9LS Tel. 01962 857 1225 www.winchester-cathedral.org.uk オープン時間：9am-5pm 大人 6ポンド 親同伴の16歳以下の子供 無料



The Great Hall and the Round Table グレート・ホールとラウンド・テーブル

1067年にウィリアム征服王が建てたウィンチェスター城は14世紀に大火で焼け、このグレート・ホールだけが残った。このホールは1222年から1235年にヘンリー3世によって増築されたもの。ホールに掲げられた円卓は、「アーサー王の円卓 King Arthur's Round Table」と呼ばれ、アーサー王物語に登場する「円卓の騎士」たちの名が記されている。アーサー王の時代のものではなく、13世紀に造られ、16世紀に塗り替えられたもの。現在、グレート・ホールはウィンチェスターおよび英国の歴史を辿ることのできるミュージアムとなっている。 Castle Avenue, SO23 8PJ Tel. 01962 846 476 www.hants.gov.uk/greathall オープン時間：年末年始を除く毎日10am-5pm 入場料無料



Wolvesey Castle ウルヴァージー城

こちらもヘンリー・オブ・プロウの城として1130年から1140年の間に建てられたもの。1141年の女帝マチルダとステイブンの王位継承戦の舞台にもなった。1554年にメアリー1世とスペイン王フェリペ2世の披露祝賀会が行われた場所としても知られるが、清教徒革命時に破壊され、現在は廃墟となっている。 College Street, SO23 9NB Tel. 02392 378 291 www.english-heritage.org.uk オープン時間：年末年始を除く毎日10am-5pm 入場料無料



ジャーニーのクラシファイド・アドなら

お申込みからお支払いまで オンラインでラクラク

掲載料はその場で自動計算

通常締切に間に合わなかった方のために、Express, Super Express (追加料金がかかります)もご用意しています。 詳細・お申込みはこちらをご覧ください。

www.japanjournals.com

ご利用頂けるカード Switch / Maestro / Solo Delta / Master / Visa American Express Japan Journals Ltd Journey Classified Dept.

トラベル・インフォメーション

Winchester College

ウィンチェスター・カレッジ

1382年に開校されたイギリス最古の男子全寮制パブリックスクール（私立中等学校）で、イートン校、ハロー校と並ぶ3大名門校のひとつ。現在、13～18歳までの約700名の生徒がおり、その大半は学外の寮から通学しているが、約70名は学内寮に住む奨学生（「スカラー」と呼ばれる）で、ガウンを着用するなど、より伝統的な規律に基づいて勉学に励んでいる。もともと、中世の教会に付随して創立された文法学校としてスタートしたパブリックスクールは、ラテン語やギリシャ語の文法を教え、聖職者への道を開くことを目的に設置された。ウェストミンスター、ウィンチェスター、イートン、ハロー、ラグビー、マーチャント・テイラーズ、セントポールズ、シュルーズベリー、チャーターハウスの9校が「ザ・ナイン」と呼ばれる代表的な名門校。

College Street, SO23 9NA Tel. 01962 621 100 www.winchestercollege.org

*入場はガイドツアー参加時のみ可能

ガイドツアー（10名以上のグループは要予約。Tel. 01962 621 209）

月・水・金・土 10:45am、12pm、2:15pm、3:30pm

火・木 10:45am、12pm

日 2:15pm、3:30pm

大人 6ポンド 子供・シニア 5ポンド



The Hospital of St Cross

聖クロス病院

ウィリアム征服王の孫であり、ウィンチェスター司教であったヘンリー・オブ・ブロウが1132年から1136年の間に設立したといわれる病院。建物は歴史的建造物グレードIに指定されている。英国で最も古い慈善養護施設であり、詩人キーツの散歩道の終点としても知られている。

St Cross Road, SO23 9SD Tel. 01962 851 375

www.stcrosshospital.co.uk

オープン時間

4-10月:

月-土 9:30am-5pm

日 1pm-5pm

11-3月:

月-土 10:30am-3:30pm

大人 3.50ポンド

シニア 3ポンド

子供 1.50ポンド



Jane Austen's House Museum

ジェーン・オースティン記念館



ウィンチェスターから25キロほど離れたチョウトン村には、ジェーン・オースティンが晩年を過ごし、著作のすべてを仕上げたとされる家がある。彼女は自分が作家であることを悟られないよう、1階奥の食堂を仕事場とし、ドアを締め切って執筆に励んでいたとされる。現在は「ジェーン・オースティン記念館」として一般公開され、彼女の手紙や初版本、アクセサリーなどが展示されている。

Chawton, Alton GU34 1SD Tel. 01420 83262
www.jane-austens-house-museum.org.uk

オープン時間

1-2月: 土・日 10:30am-4:30pm

3-5月: 月-日 10:30am-4:30pm

6-8月: 月-日 10am-5pm

9-12月: 月-日 10:30am-4:30pm (12月25・26日は休館)

アクセス: ウォーターレー駅からAlton駅まで電車で約1時間。

Alton駅からはバスかタクシーで約10分。

大人 7ポンド

シニア・学生 6ポンド

6-16歳の子供 2ポンド

6歳以下 無料

詩人キーツの愛した町

わずか25歳で夭折した英国を代表するロマン主義の詩人ジョン・キーツ John Keatsは、1819年の晩夏と初秋をウィンチェスターで過ごした。前年に弟を結核で亡くし、自身も結核の兆候を見せ始めたために婚約相手のファニー・ブロンともなかなか結ばれないという不運な境遇に置かれたキーツではあったが、ウィン



チェスターでは穏やかな日々を過ごしたようだ。キーツは日々、大聖堂からウィンチェスター・カレッジを過ぎてイッチン川沿いを下りセント・クロス病院までの2キロ強の道のりを歩いていたとされる。ここで創作意欲を掻き立てられたキーツは、ウィンチェスター滞在中に代表作の頌歌『秋に寄せて To Autumn』を書き始めている。「Keat's Walk」という、キーツが歩いた散歩道をまとめたウォーキング用リーフレットがあるので、それを頼りに歩くと、キーツの愛したウィンチェスターの景色を眺めることができる。

City Museum

シティ・ミュージアム

鉄器時代の遺跡が見つかったほか、かつてはローマ帝国の軍部でもあったウィンチェスターは、ヨーロッパ史上においても重要な町。この町の鉄器時代、ローマ時代、サクソン時代から今に至る変遷を辿ることのできるミュージアム。

The Square, SO23 9ES Tel. 01962 863 064



©Dot and Dan Create

オープン時間

4-10月:

月-土 10am-5pm

日 12pm-5pm

11-3月:

火-土 10am-4pm

日 12pm-4pm

入場料無料

Winchester City Mill and Shop

ウィンチェスター・シティミル・アンド・ショップ

ウィンチェスターの町に流れるイッチン川沿いに立つ製粉所。15世紀の建材を使い、1744年に再建され、第一次世界大戦前まで地元のベーカリーなどのために製粉を行ってきた。2004年から90年ぶりに使用が再開されており、水車によって挽かれた粗挽きの全粒粉が販売されている。

Bridge Street, SO23 0EJ

Tel. 01962 870 057

www.nationaltrust.org.uk/winchester

citymill

3月6日-12月24日まで毎日

10:30am-5pm

大人 4ポンド

子供 2ポンド

ファミリーチケット 10ポンド

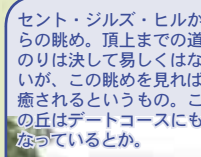
(大人2名+子供2名)



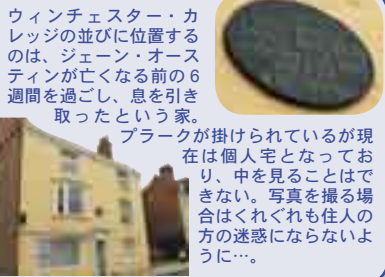
今も町を見据えるアルフレッド大王の像



イッチン川沿いのウォーター・メドウズ Water Meadowsには創造意欲を掻き立てるような美しい景色が広がる。



セント・ジルス・ヒルからの眺め。頂上までの道のりは決して易しくはないが、この眺めを見れば癒されるというもの。この丘はデートコースにもなっているとか。



ウィンチェスター・カレッジの並びに位置するのは、ジェーン・オースティンが亡くなる前の6週間を過ごし、息を引き取ったという家。ブラークが掛けられているが現在は個人宅となっており、中を見ることはできない。写真を撮る場合はくれぐれも住人の方の迷惑にならないように...



ウィンチェスターの町の中でも最も中世らしさを残しているといえるカレッジ・ストリートには、ビルグリムズ・ホールという14世紀初頭の建物（写真左の白い建物）や司教の庁舎として使われていた15世紀の建物（写真右の黄色い建物）がある。現在は個人所有となっており、中は見学できない。